

# 第10回 寒河江市立学校のあり方検討委員会 議事録

日 時 令和3年11月2日（火） 午後3:00～

会 場 寒河江市技術交流プラザ 第2研修室

## 1 開 会

## 2 教育長あいさつ

## 3 委員長あいさつ

こんにちは。今教育長さんからありました通り、令和元年7月からこれまで過去9回にわたって、皆様の貴重なご意見をお聞きしてまいりました。私、委員長という立場で果たして本当に皆様の意見を吸い上げることができたのかどうか、今非常に反省しているところでございます。事務局さんのご苦勞によりまして、またこういった、今日最後の案といたしますか、を出していただきました。これについて、今日は皆様お一人お一人から、貴重な意見をもう一度お伺いし、最後に今ありました通り、教育長さんに諮問を受けたものに対する答申というものを outs させていただきます。令和元年度からこれまでの間も、コロナ禍ということで、非常にいろいろな面で情勢が変化しております。一番関係するのは、いわゆる出生率の低下、非常に落ち込んでおります。そんなこともあって、想定できない部分がこれからも生じるかと思ひます。そんな中、皆様のお考えを、これ、合議制ですけれども、「100%全員分を一つにして」ということは出来ないと思ひますけれども、その辺も加味しながら、できるだけ皆様のご意見が反映できる答申文になればというふうに思ひますので、今日これからの話し合い引き続きよろしくお願ひいたします。挨拶に代えさせていただきます。

## 4 事務局から資料の説明（学校教育課 佐藤課長）

ご苦勞様でございます。それでは、内容について説明申し上げます。お手元の資料ですが、委員長からも目を通していただいて、事務局でまとめさせていただいたものです。事前に資料は配付いたしましたので、皆様から目を通していただいていることを前提に、説明申し上げますけれども、あくまでも「たたき台」という事で、ご協議いただき、まとめていただく作業をお願いしたいと思ひます。内容について、概略をご説明申し上げますが、こちら答申案の全体の考え方につきまして、前回からの修正があった訳ですけれども、前回の検討結果を踏まえた修正の他に、対外的に市民から見られるという事とした場合の、結論に至る考えをより詳細に記述させていただいたところでございます。考え方自体はこれまでの検討内容を踏まえて、変わりはないというふうに考えております。答申の本文になってまいりますが、大きく変えておりますのが、まず2ページからの「検討結果」で、カッコ書きの表題を小学校と中学校に分け、適正規模と適正配置を記述しているところが、大きく変わった内容となっております。そして、6ページの「義務教育学校」についての記述を、前回のご意見をいただき、柔らかくしたところがあります。あと、資料になりますけれども、10ページからの「資料3」ですが、学校の統廃合について協議いただいたことについて、具体的な内容を表に記しているところでございます。あと16ページに、前回第9回の内容を記述させていただいたという事で、ポイントを申し上げますと、以上の点になろうかと思ひます。なお、詳細につきましては、事前に目を通していただいた

ということで、割愛させていただきたいと思います。以上でございます。

## 5 協 議

### ○委員長

それでは、私の方で暫時座長を務めさせていただきます。終了は5時ころを目途とさせていただいてよろしいでしょうか。はい、それではこの会議は5時までには終了するというので、皆様のご協力をお願いしたいと思います。今もありました通り、委員の皆様には資料が事前に配られているという事ですので、目を通していただいているかと思えます。9回目の時は、項目に分けて意見をいただきましたが、今日はこれを全部通して、検討結果並びに資料なども含めながら、全ての資料に対するご意見をお伺いできればと思います。委員の皆様全員からご意見をお伺いしたいと思います。その都度、質問等が出た場合は、事務局さんからも参加いただくという形にさせていただきたいと思います。それでは、委員さん、初っ端で申し訳ないのですがよろしくお願い致します。

### ○委員A

これまでの委員会の内容は皆さんご存じの通りなので、そのような話の中で進んできたという事で、私も納得しているところでありまして、私もいろんな意見をさせていただいたと思っているところでした。最終的に、中学校にしろ、小学校にしろ、どれくらいのものが適正規模なのかということと、内容的にどのような教育をして、将来的に子どもたちを育てていくのか、ということが一番の内容だったかと思うのですが、やはり先ほどもあった通り、少子化の事を含めて適正規模というのはどれくらいなのか、また全国を含めて各市町村の人口減少という事ももちろん加味されることでありまして、そういった事を考えた場合に、学校を建てるという事に関しては、当然予算があって、さらに行政のプライマリーバランスという部分も含めて考える必要があると常々考えています。やはり私たちは税金の中から、福祉であろうが教育であろうが、建設であろうが、学校が多ければ多いほど、子どもたちに対する教育も充実すると思うのですが、そこには当然維持費がかかってくる、という事も含めると、その部分は外して考えるわけにはいかないのかなと思ったところです。あとは、ちょっとまとめ切れていません。

### ○委員長

最初ですから、大変だと思いますので、全部終わってから、またまとめの時間をとりますので、その時に他の委員さんも意見を出していただければと思います。では、次に委員さんお願いします。

### ○委員B

資料を事前にいただきまして、拝見させていただきました。それで、感想というか感じたことなのですが、前回の9回目でみなさんからいろいろな意見が出されて、それらがエキスとして中に入っていて、網羅されているという事で、事務局の皆様すごく丁寧にまとめてくださったんだなあと感心して見ていたところです。一点、規模的なところ、そして緊急的に対応しなければならぬという時間軸も中に組み込まれた形でまとまっているので、よくまとまっていると感じた

ところでは、その中で1点、本筋からは外れてしまうことかもしれないのですが、5ページの2のところ、「学校の今後のあり方や将来の学校像に対する本市の基本的な方針」ということで、特に小学校の施設設備の所に入るのかどうかなのですが、今小学校には、学校が終わった後、放課後の学童クラブというものが民間であったり、また公営といいますか公設民営といいますか、そういうことで寒河江市さんでも力を入れてやってらっしゃるわけですけど、今ある小学校の所であれば、それは問題ないのですが、将来的に統合されて場所が変わったりしたときに、放課後の学童クラブへのフォローということをして、これまで話をしなかつたなあと思ひきまして、ずれてしまうのかもしれないのですけれど、入れた方がいいのかなと思ひたところでは、「十分にわかつていて、当然のことだ」ということなのかもしれないのですが、念のため入れた方がいいと思ひたところでは。

#### ○委員長

学童クラブに関しては、どうあるべきという、学校の近くとか、そういう印象でしょうか。要望としては、まあ、学童クラブに関しては、確かに今まで話し合いがされてこなかつたわけですけど、この点に関して市の方ではどういうふうにお考えか、もしわかれば。

#### ○事務局（学校教育課 佐藤課長）

学童クラブにつきましては、基本的には学校の校舎の敷地の中にあつて、グラウンドとか施設を利用できるということが、市としても好ましいと思ひておひまして、子育て推進課など関係課と調整しながら、整備はなつてくると思ひますけれども、今後具体的な施設整備になつてきた場合に、当然そのことは加味して、計画になつてくると思ひておひます。なお、正式には「放課後児童クラブ」といひますが、その記載を入れることも可能だと思ひますので、その点については検討したいと思ひます。

#### ○委員長

直接の担当課さんが、教育委員会ではなくて福祉の方の関係になつてくるといふ事もある、係調整も必要になつてくるといふことで、もし可能ならばといふ事で、要望としてありがとうございました。続きまして委員さんおひします。

#### ○委員C

私も委員さんと同じで、うまくこれまでの経緯の部分をまとめていただひているなど考へて見させていただきました。ちょっと気になつた部分で、3ページ、前回もこの意見はあつたかと思ひうのですが、「陵西中学校区に建設することが望ましい」この部分が、「希望もありました」といふ表現にさせていただひて、要望といふ事で中に入れていただひているんだらうな、とは思ひたんですけれども、この部分が検討結果の中に入つているといふ事で、どうなのかなと、ちょっと思ひて資料を見させていただひておひしました。後ほどの経過の中に入つているような内容でもよいのかどうか、それともあくまでここは、検討結果といふ形で入れた方がいいのか、といふことは私も判断付かないな、といふ気持ちで見させていただきました。あと、同じく3ページですけども、中段より下の所にならうかと思ひますが、「アンケート調査でも、南部小学校と柴橋小学

校の児童数を『「ちょうどよい」と答えた割合が4～5割』という記載がございますけれども、こちらの資料を読み進めれば、「資料7」のアンケートで、あくまで保護者に対するアンケートであるということが分かるんですけども、この時点で、アンケート調査という形になってくると、地域の方へのアンケートなのか、保護者へのアンケートなのかによって、この部分の捉え方がだいぶ変わってくるのかなと。保護者の方だと「ああ、なるほど。今の学校の教育状況を見て、ちょうどよい、必要ないと考えているんだな」と分かるんですけども、地域の方へのアンケートというふうに捉えられてしまうと、ちょっとこの説得力が変わってくるのかなというふうに思いますので、こちらの方に「保護者へのアンケートでも」と書き加えていただくと、より厚みが増すのかなと思って見させていただきました。その他については、部活動の部分なんかも、6ページの方で「多様な選択肢のある部活動」ですとか「地域移行」という事を記載していただいておりますので、この部分も、前にお話させていただいた部分も網羅していただいているのかなというふうに思っています。以上でございます。

○委員長

ありがとうございます。アンケート調査については、「保護者向け」と載せることは大丈夫かと思いますが、いかがですか。

○事務局（学校教育課 佐藤課長）

そのように、訂正可能ですので、直すという事でよろしいでしょうか。

○委員長

そのようにしていただければ、より明確かなと思えました。逆に、その上の方、いわゆる陵西中学校区への学校設置の問題ですけれども、これはなかなか意見がまとまらないところでもあった訳ですけれども、教育委員会の意見も含めると、陵西中学区から1校も無くなるということは、「これはまずいだろう」ということは、我々全員の考えでもあると思いますので、そういう意味では、それを「まとめ」という形で出すことは難しいので、「考えてほしい、という一言もあった」というような文言になったと思いますけれども、その中に最低1校の設置を、小中いずれかの設置を、というような願いは、根底にあるというような意味合いでとっていただけるのかなと思うのですが、よろしいかなと思いますが、いかがですか、事務局さん。その辺は。

○軽部教育長

なかなか、この所は「合意形成がなされたのかな」という所があるのですが、やはり皆様の希望としてあったのかなという事で、ここに入れているんですけども、今、委員からあったのは、「議論の経過の中に確かにあったけれども、このまとめの所に入れるのはどうなのか」ということですね。そこはちょっと、お諮りしていただければありがたいと思うんですが。

○委員長

はい、わかりました。いかがなものでしょうか。他の委員さんのご意見はいかがでしょう。この文章を、答申文に入れるべきかどうかという所ですが。

#### ○委員D

私も意見の中で、そこ1点が、委員の意見と一緒にです。本当に入れていいのかというのと、あとどこに、どこの話し合いの時にそれがあったのかというのを、そっちの方に入っているのかなと思っていたら、そうでもないし、一体どの時点なのかなと自分でも振り返っても、ちょっと分からなかったという所があって、どの話し合いの時に、そういった話があったのか。あと、今、答申としてこれを入れるのかどうかというのは、すごく難しい話だと私も思います。あと、ここでも陵西学区の方がいらっしゃいますので、そういうふうに希望されているというところが事実としてあるのかどうかというか。理論的には分かりますけれども、はたして、寒河江市としてどうなのか、という所を考えると、やはり難しいものがあるのではないのかな、というふうに思います。私も陵南学区の保護者の方とお話したりすると、「そこに行かせるの？」みたいな話も当然出てくるわけですので、その辺りを含めて、どのあたりで話し合ったのかなということをお答えいただければありがたいです。

#### ○委員長

はい、まあ経過の中に含めるべきか、答申文の本文の中に入れるべきかというご意見かと思えます。まあどこでやったかという、これまで節々に出てきた所があったのかなということ、グループワークなんかしていると、そういう意見も含まれているかなという感じがするんですが、どうでしょうか。本文の中にこれを入れるべきかどうかということ、もう少しご意見をお伺いしたいと思いますが、他にいらっしゃいますか。

非常に難しい問題ではあります、確かに。もう一つ、二つ、意見をお伺いした上で、少し進めさせていただきたいと思しますので、どなたかご意見をいただければと思います。

#### ○委員E

地区の代表の一人として、そして、そこに住んでいる保護者の身となれば、自分の地区に学校が無くなるから、「じゃあ、学校の近い所に移って行こう」とか、例えば、今、多世代できたのも、核家族みたいにして出て行って、人口減少、それからその地区が衰退するという可能性がないだろうかという話があったような気がするんです。やっぱり我々としては、地区を大事にする、コミュニティ・スクールというのも今どんどん盛んになりつつありますし、そういう所はたいへんありがたいんですが、先程から意見が出ているように、なかなか寒河江市としてそれでいいのかと言われると、これは難しい問題かなという気がします。私の個人的な考えとしては、西部地区にも、何も無いというのはやっぱりどうなのかなと、それなりの地区を活性化したり、子どもや生徒の活躍が分かるようなそういうものがあつた方が、私も個人的には良いので、こういう意見がありましたと書いてあるんですけど、その辺の人口が若い世代が、学校もないと出ていってしまうんじゃないかという危惧から、そういう意見も出されたみたいなところを、少し具体的に書いてもらって、入れて、その結果どうなるかは分からないんですけど、いろんな機能とか、スクールバスのこと、いろいろ考えていくと、なかなか、例えば、中学校1校を西部地区に置くなれば、なおさら大変かなとは思いますが、もうちょっと詳しく入れても私はいいんじゃないかと、地区住民としては、大変こういう状況はありがたい答申だなと思っております。

○委員長

はい、委員さんお願いします。

○委員F

私、この前も申し上げたと思いますけど、どちらかというところ「無理な方じゃないか」という意見を申し上げました。醍醐小学校学区なのですが、陵西学区3校を合併して、もう一回という、二段階の合併も考えられます。その時の二段階目の学校は、新しく土地を求めるのではなくて、陵東の校舎の跡を使おうという案もありました。それを考えると、陵西になくなるんですよ。ですから、いろんなことを考えると、この答申はこのままでもいいんですが、現実無理があるんじゃないかということ考えた文章でいいんじゃないかと思っています。これ小学校がなくなる地域の事を考えたら、一つも無いというのは本当に寂しいんですが、いずれ無くなるんですよ。だから、そこは、この検討を8回9回やってきた中で、二段階と考えた時、皆さんどこに学校を持ってくという考え方なのかなと、欲しいものばかり言っても進まないと思いますんで、ここは無理もあると私は理解してますんで。以上です。

○委員長

貴重なご意見ありがとうございます。今のご意見を加味しますと、少し含みを持つという意味からも、本文の中にこういう意見がある、その経緯も含めて、出しておいた方がいいのではないかと、という方向の方が、より地域の方々の思いも含めて検討したんだという事が分かるのかなと思いますので、先ほど委員さんから出されたように、内容をもう少し丁寧に説明しながら、ここに載せるというふうな方向で考えてはいかがでしょうか。

皆様領いておられる方もおりますので、その様な方向で検討させていただければと思います。ありがとうございました。続いて、委員さんお願いします。

○委員G

2ページと3ページのところで、私もかなり、ここが踏み込んだんだとか、ソフトになったなというところで、ちょうど今議論があったので、そこはちょっと抜かしたいと思うんですが、全体的に踏み込んだ内容にはなったけれども、表現がソフトになって読みやすくなったのかなという感じでした。例えば、3ページだと、南部小のこととか、柴橋小のこととかを、細かく分けて書いてとか、あとは(3)の所も詳細な記述になったなという印象でした。あとは、1点、私もよく分からないんですけど、5ページの(3)のところで、「ポストコロナ時代における新しい教育への対応について」というところなんですけど、ポストコロナとこの①②③④⑤までが、関係あるとすれば、⑤だけじゃないかなというふうに思ったんです。それが、前回のだと、「新しい時代の教育の対応について」というふうな、別な表現だったので、そこが確かアフターコロナの話が出た時に、そこをあえてくっつけちゃったのかなって思ったんですけど、①から④まではあんまりポストコロナとは関係ないような気がしました。

それから、資料4のところで、文科省のところなんですけど、「要約」ってあって、もしその要約の中に市としての話とかが入っちゃったら、それは要約とは言えなくなるんじゃないかということがちょっと気になりました。以上です。

○委員長

ありがとうございます。まず一点目でご指摘いただいた、ポストコロナ。言われてみると取っ付けたのかなって感じもしないでもないんですけど、そうですね、確かに①②③④これは新しい学習指導要領に沿ったもの、⑤も含めてで、まだ新しい学習指導要領が出たころは、まだコロナはそんなに蔓延してなかった時期ですから、「ポストコロナ時代」という文言を入れるかどうかということですけども、無くても今新しい時代に対応したという事で、ポストコロナという、また別の対応が出てくるのかな。いかがですか、これは、「ポストコロナ」という文言については。

○軽部教育長

確かに、言われればそうかなと思いますけども、全てにおいてもう前には戻れないというか、新しい生活様式に対応した教育のあり方を考えていかなきゃいけないんだろうなと、①から⑤までもまず従前のものではなくて新しい考え方に基づいた、教育観に基づいた対応を考えていかなきゃいけないんだと思います。そこにやっぱりコロナという視点も加わってくるので、あえて「ポストコロナ」と入れたんだと思いますけども、委員長さんからあったみたいに、「ポストコロナ」を取ってもコロナを意識せざるを得ないと、こういうふうな状況なので、省くということもあるだろうし、あるいは⑥に「コロナの時代を踏まえた新しい生活様式を念頭に置きながら」というようなことを入れれば、この書き方だと、全て包含するみたいな感じになっているので、新しい教育のあり方なんだけれども、コロナについても新しい感染症についても、念頭に置く必要があるんだという意味では、例えば①から⑤に並列して⑥に入れるとか、そういう考え方があるのかなと、今お話を伺って聞いていたところです。今すぐ結論は出ないので、今の所そんなふうにお聞きして、そんなことで委員はいいのか、ポストコロナというのを全て包含しているみたいなんだけど、実際は⑤しか関係ないんじゃないかということ、一番強いのはICTなんだけど、でも主体的・協働的な学習だって今までとは違ったような形の新しい対応が必要なんだと思う。まあ全て関連するのだと私は思うんですね。だから包含するといえば包含なんだけれど、書いてしまうとそうなのかなと思ってしまう所もあるので、だからさっき言ったみたいに、⑥に入れてしまって、それも意識するんだよ、というふうな書き方もあるのかなというふうに思いました。

○委員長

そうですね。委員さん、今の教育長さんのお答えに対してどのようにお感じですか。

○委員G

⑥で入れるというのがいいと思いました。

○委員長

この辺は、そのように検討させていただいて、今あった通り、「ポストコロナ」と出すならば全てにおいて関係はするんです。ただ、無くても新しい時代ということが言えるんですけど、後戻りできないということがポストコロナの場合あるわけですね。先が見通せない。それに対して新しい寒河江市の学校がどういうふうにあるべきか、という事も含めて検討したんだというふうな

ことだと思しますので、そのところは検討させていただきたいと思します。

それから、二番目のご質問ですけれども、この文科省の通知要約ですが、では、事務局お願いします。

○事務局（学校教育課 佐藤課長）

17ページ以降の文科省の資料になりますけれども、第1回の委員会の時に、皆さんに配付されたというふうに、ちょっと資料からは見て記憶しているんですが、こちらの資料はいろんな項目がございまして、関係する1の「適正規模・適正配置の考え方」、そして、諮問であります学校の内容とかですね、あと20ページの「統廃合の基本的な考え方」とか、そういった今回の諮問に関する項目について抜粋したということが第一点、そして、資料を基に、いろんな文体がございまして、「だ」「です」とか、いろんな語尾を調整したというふうな、そういった項目について訂正しております。考え方自体は、関係する項目について抜粋しているということで、基本的にはそのまま使っているというふうに考えていただいて結構です。

○委員G

分かりました。

○委員長

寒河江市としての意見は入っていない、あくまでも要約であるというふうなことでご理解いただければと思います。

○事務局（学校教育課 佐藤課長）

「抜粋」ですと、そのままの言葉になりますので、表現の仕方としては「要約」ということでお願いしますと思します。

○委員長

よろしいでしょうか。ありがとうございました。続いて、委員さんお願いします。

○委員H

今日で10回目、ほんとに資料が前回よりもずっと見やすくなっていて、読みやすくなっていて、事務局の皆さんのご苦勞がしのばれると思しています。

建物をどこにするかとか、どんな施設にするかっていうところも大事ですけども、以前委員からも話があったように、寒河江市の教育としてのあり方といいますか、ちょっと資料と離れる話で申し訳ないんですけども、当時、尾花沢高校と大石田高校っていうのが、それこそちょっと言葉が適当かどうかわかりませんが、学力があまり、ちょっと勉強が苦手な子たちがいるような学校だったのです。でも北村山高校を創設するにあたって、そういった、ちょっとライバル関係にあったような学校を統合するにあたって、生徒同士として、対立は起きないかとか、いろんな問題があったわけですけども、統合する前にいろいろ二つの学校でいろんな行事をして、だんだん仲良くなっていったという経緯があったようです。また統合してすぐの年は、一部



の生徒が不安定になって、学業不振、問題行動を起こして退学者が三十数名いたそうです。開校2年目に、先生方に「生徒に深く入り込んでほしい」、今までだと廊下ですれ違っていた時に声をかけていても、自分の高校から来た生徒を鼻屑していないかと思われぬように、先生たちもちょっと遠慮した部分があったそうですけれども、そうではなくて、「廊下ですれ違った時に気軽に声を掛けてほしい」「放課後先生たちも教室に向いて、無駄話でいいから生徒と話をしてほしい」「部活動の顧問は、練習の合間に、部活動以外の事について話をしてほしい」というのを、校長として先生方をお願いしたそうです。それから、三十数名いた退学者でしたけれども、次の年には十数名、2年目には一桁まで減らしたそうです。県教委の指導課の方から、どのような指導をしたのか調査に来られたということで、「先生方に生徒との関わりについて、ちょっとお願いしただけだ」と言ったら、「えっ、そんなことで退学者が減ったんだ」というので、びっくりされたということが、こういったものを書いてありまして、小さなこと、当たり前のことを全職員一致して指導に当たったことが成功の要因だと振り返っております。

資料に戻りまして、5ページの2の(1)⑦ですけれども、「児童生徒にとって開かれた職員室」、4ページの下の方にある、④の「学校行事において、係や役割分担のない生徒が現れる可能性」というところで、不登校ですとか、いじめの問題がまたちょっと起きてしまうのではないかなと思うので、参考にさせていただいて、まあ統合になるのは何年後か分かりませんが、そういった先生方のあり方についても、指導の仕方についても、ちょっと頭の隅に入れていただけたらなと思います。

#### ○委員長

貴重なご意見ありがとうございます。それを確かにハードだけではなくて、そういった生徒指導の面を含めたソフト面での充実というの、対策がとにかく必要だという今のお話だったと思います。これについては、特に文言を設けるということでもよろしいかと思えますね。西部中学校最後の年です。その時にどういうふうにしたかっていうと、まず学校間の交流をやったということ、生徒間の交流ですね。あとは、人事に関しては、必ず統合した所にその職員を配置したというふうな事で、そういうふうに要望したということで、いわゆる生徒指導が円滑に進められるような人的配置や生徒指導や生徒間の関わりを、事前にやっていく、繋ぎをちゃんと持つということかと思えます。そういう点につきましては、教育長さんを中心にこれからどのような経営をやっていくか、統廃合にあたっては、そこのところ特に大切だと思いますので、ぜひ、意図してやっていただくことをここで改めてお願いして、文言には出さなくても、特に今指摘された件については、強調をお願いしたいということかと思えますので、ありがとうございました。

さらに進めさせていただきたいと思えます。委員さんお願いします。

#### ○委員D

私は先ほど話しましたので、いいです。

#### ○委員長

それでは、こちらの方全員からお伺いしましたので、次はこちらの方に回らせていただきまして、今日は委員さんがご欠席ということで、委員さんの方からお願いします。

#### ○委員 I

お疲れ様です。事務局の皆さん、ほんとに分かり易く、だいぶ見やすく資料を作っていただきましてありがとうございます。

先ほど、委員さんと委員さんの方からあったところにはなるんですけども、陵西中学校区の方から、なくなるということで、西部学区のほうに建設してほしいという希望もありましたというふうな、少し希望を持ってもいいのかなというふうに思うので、残して欲しいなという部分はあるんですけども、現実的に考えてかなり人も減っているということもあって、まあ、この文章がなくなってもしょうがないかなというふうなところは正直なところあります。まちづくりという大きな枠組みの中でというふうな事を考えても、やはり衰退は避けられないのかなというふうに個人的に思いますので、その時に、しっかり対応できるように、子どもたちが置いていかれないようにというか、そういったこれから寒河江に住む子どもたちが置いていかれないような取り組みの方をしっかりと考えて、教育だったり、そういったところに力を入れていただければいいのかなと思います。現状、小学校とかも少ない人数の中で、全員に目が行き届くような中で、教育をしてもらっているということもありまして、人数が増えることによって、置いていかれる子とかが出てきてしまうということもあると思いますので、その辺さっき委員さんからもあった通り、ソフト面というところを、充実していただくというか、厚い支援をしていただければいいのかなというふうに思いました。以上です。

#### ○委員長

ありがとうございます。だいぶこの文章そのものがスッと入っていくようにまとまってきたなという感じは確かに受ける所です。今もありましたけれど、ソフト面ですね、充実はこれからの対応かと思しますのでよろしくお願ひしたいということだと思います。

ありがとうございます。続けさせていただきます。委員さんお願いします。

#### ○委員 J

皆さんお疲れ様です。私もこの資料を読ませていただいて、ほんとに今まで様々な意見を我々委員の方が出してきたと思うんですが、それを上手くまとめていただけたかなというところで、思ったところでした。

私もちょっと引っかかったところとしては、委員さんと同じところで、「アンケート調査でも」というところですね。先ほど「保護者から取った」ということを付け加えるということで、お話ありましたので、そこを加えていただければとてもいいんじゃないかなというところで、私の意見とさせていただきます、以上です。

#### ○委員長

ありがとうございます。それでは委員さん、お願いします。

#### ○委員 K

皆さんからもお話がありましたけれども、勝手な意見をうまくまとめていただいたな、というのが感想でございます。意見は色々出ましたので、私からはちょっと細かい話で大変恐縮ですが、

意見というか質問になろうかと思うんですが、5ページの大きい2の(1)に「小中学校の施設設備について」に①から②まで具体的に非常にわかりやすく、記述があるのですが、私が1点気になったのが、先ほどもちょっとお話が出たんですが、⑦に「開かれた職員室」という記述があるのですが、これは教育界においては定まった概念というのはあるのでしょうか。ソフトとかハードとか。いわゆる「開かれた教室」というのはよく使うのですけれど、一般の市民の方からすると、どういうことになるのでしょうか。

#### ○軽部教育長

「施設設備について」と書いてあるので、物理的に開かれた意味のようですが、これは心理的にどうか、先ほど委員からあったみたいに、職員室の敷居も低くて、子どもたちと先生方が、心を通い合わせる、あるいは子どもの人権を最大限に尊重するような先生方の指導のあり方、そういうことを言っているのだと思います。まあ、それと物理的な「入りやすさ」とかも含めてだと思いますが。先ほどの議論を蒸し返すようで申し訳ないのですけれど、委員からあったのも、(4)の「小中学校における児童生徒指導への対応」というところで、物理的に施設設備というよりも、逆に、先生方の子どもへの生徒指導のあり方ということで、「開かれた職員室」というのは、教員の中ではなんとなくイメージできるんですが、一般の市民の方には、なかなか「どういうことなんだ」というふうになるとすれば、先ほど私が申しあげたような、「子どもと教師が非常に意思疎通ができて、そして子どもの困りごとにも、しっかり先生方が感度を高く、早く察知して、一人一人の子どもの人権を尊重する、そういった指導のあり方を大事にしていきます」というようなことを(4)の中に加えてもいいのかなと、そして先ほどあったように、北村山高校の統合の経緯などもあれば、統合の場合は、やはりこれまでの学校の子どもたちが、うまく順応できるような、そういった「事前の取組みなどにも配慮していきます」とか、そういったことを入れた方が分かり易いのかなと。確かに私たちは「開かれた職員室」というのはイメージできるんですけど、「ガラッと開けっ放しにしておくのか」というような。いやここは施設設備について書いてあるので、「開かれた」となるとそれと結びつきやすいので、そうではなくて、心理的というか、子どもたちへの支援のあり方、教育のあり方そういう事だとすれば、この⑦を言い換えをして、(4)にくっつけた方がいいのかなと。これは委員の方の質問を受けたので、お返ししましたけれども、ここは皆様のご賛同が得られれば、今、私が申しあげたような形で、させてもらってどうかなと思ったところです。

#### ○委員K

ありがとうございます。私が思っていたのは、今、教育長さんがおっしゃったんですが、「開かれた」からハードとソフトがあって、ハードも考えているのかなと思ったんです。例えば今、職員室というのは、たいていは玄関のわきに校長室があって職員室という感じですよ。3階建てだとしたら2階に置くとか、そんなイメージがあるかと思ったんですけど、どうもそういうイメージではないんですかね。

#### ○軽部教育長

まあ両方あるんだと思いますけれども、やはり先ほど申しあげた、心理的なものを大事にすれ

ば、今みたいな閉ざされたのではなくて、たとえばガラス張りの様に入りやすいとか、あるいは、オープンで、今からの学校というのは色々考えて、今までの固定概念でなくて、例えば新しい学校にしていくのであれば、寒河江から発信していく、「こういうふうにすれば、物理的にも子どもたちの教育と、先生方の空気感というのが混じり合って、すごくいい環境になっていく。それは心理的にも開かれた職員室なのだけれども、物理的にもこういった事で、効果を上げますよ」という事を、これまでの職員室概念みたいなものは取っ払って、そういった事も考えていく契機になればなと思っているので、まあ、こちらにも入れててもいいのかもしれないですが、まあ書きぶりについては、願いは両方だという事なので、いま喋ったようなことを、もう一度整理して、あと先ほど委員からあったみたいに（４）の中にもぜひ入れさせて、まあ、委員長さんから「特に起こさなくても」ということもあったのですが、いま質問があったので、逆に、そこに入れていただいて、より子どもたちに寄り添った教育を先生方に求めていくんだ、ということは、この機会なので入れさせていただきたいなと思ったところでした。

#### ○委員K

ありがとうございました。ちょっと私が思ったことは、いわゆる「開かれた職員室」。なんとなくみんな分かるんだけど、ここで言っているのは何を言っているのかなと、もう少しクドクドということは必要ないと思うんですが、「じゃあ、具体的に何なんだ」と、「例えばこういうもの」とか。教育長がいろいろおっしゃいましたけれども、その辺を工夫していただいた方が分かり易いかなと思いました。

#### ○委員L

先程、ハード面とソフト面が２つあるということですが、まさにその通りだと思っていて、ある学校を見た時に、職員室が真ん中であって、そこにロッカーみたいなものがあるんで、そこを子どもたちが通っていく。ほとんど職員室も全部ガラス張りになっています。ですから常に子どもたちの動きと言うものが見えるセンターに職員室があって、そこを通っていろんな教室に移動していくなっていうハード面の意味での職員室が、子どもからも先生からも丸見えになっていて、いつでも対応できるような態勢になっているハード面のこともあり、あと我々のころは職員室には、本当は入りたくなかった。煙もたってたし、すぐ注意されたし、そんな感じがあったんだけど、そういうものではなくて、やはり子どもたちがいつでも悩みを相談しやすい、そういった意味で敷居の低い、そういうものであればいいなと私も思います。

#### ○委員長

今のご意見を含めて、やはりこれは物理的な「開かれる」ということと、ソフト面での、生徒に対しての「開かれる」という両面があるようですので、教育長さんがおっしゃるように、ここにはいわゆる、クリスタルなといいますか、外からも見える、中からも見えるという意味で（１）の方には、まあ、表現をちょっと考えなくちゃいけないのかな。そして（４）の方には、ソフト面で、いわゆる生徒指導等の面からの「開かれた職員室」ということで、両方から書かれるという事が望ましいような感じがしました。これ検討させていただきたいと思いますので、貴重な意見ありがとうございました。続いて委員さんお願いします。

## ○委員F

二つほど、6ページにカッコでコミュニティ・スクールと書いていますけど、今後統廃合した場合、全てが大きくなってですね、そのコミュニティのやり方というのは、どういうふうにするんだらうと。今は自分もそこに入っていますから、これは学校全体ということにはならないわけで、地区ごとにというところが多いので、そのやり方ってどうなるんだらうなって心配しています。答申に書けない内容だと思いますんで、ここは構わないんですけど、ちょっとどうするかなのというのが、大きくなればなるほど迷うなと思っています。

あともう一つ、これも前に逆らって言いましたけど、学校の児童生徒数ですけども、どう考えても陵西学区、15年、20年経った時に、減ってない、三校を統合しても。あり得ない話な訳ですよ。シミュレーションはそうでもいいですから、現実ではおそらく一回統合して10年も経たないうちに1クラス20人を切るような100人程度の学校になるはずなんです。いっぱいいる方は期待しますけど。そうした時に、今醍醐小学校特認校にしてもらっています。中身の違う特認校、1回目とか2回目の時にも出ていますけど、やっぱり20人くらいのクラス100人程度の学校だったと。特認校で今のような形じゃなくて、もっと魅力のある、他から入ってこられるような、がっちり英語をやるとかですね、前も申し上げましたけど、プログラミングをやるとかですね、そういう「他から入って来たい」というような内容の特認校ということも、ぜひ考慮していただきたいなと思います。ここに書く書かないかは別なんですけども、その辺もちょっと気にかけていただければなと思います。よろしく願いいたします。

## ○委員長

大切な点かと思いますが、まず第一点目の、コミュニティ・スクールについては、これからも続けていかれるという事になると思います、統合したとしてもね。ただそれと地域とどう結び付けていけばいいのかということについては、事務局さんの方でご意見おありでしょうか。

一つの事例を私の方から申しあげますと、最近だいぶ変わってきてまして、最初の頃は、統合一本、一中一小になったわけですね、そうしますと地域から離れていってしまう、学校が。そういう危険性があるということで、各地域の状況と学校を結びつけるという意味でのコミュニティ・スクール。ですから広域になればなるほどそれが重要になってくると。それからもう一つ、今段々と変わりつつあるのは、学校運営協議会の委員の方が、どのようなことで学校に力を貸せるか。つまり地域と一体となって学校が運営できるような方向に段々変わってきているんですね。学校運営協議会は捉え方によっては、非常に有意義なところがありますので、小規模だからコミュニティではなくて、広域だからコミュニティという考え方も、これからはあるんじゃないかと思うんですが、事務局さん教育長さんそのような考え方もあるんですけど、どうですか。

## ○軽部教育長

私たちがコミュニティ・スクールを始めた経緯は、さっきの西川さんの例とか、先進的にやっているのは大石田とか川西さんとかになるわけですけども、やっぱり学校が少なくなって統合していった時に、結び付きが希薄になるから、それをつなぎ止めておく一つのツールとしてと、こういうふうなことがあったんだと思いますけども、寒河江は、それらとは全く別に、コミュニティ・スクールという、これまで学校は学校、地域は地域であったのを、そこを繋ぐことによって、

別な化学反応が起きて、そして学校も元気になるし、地域も元気になる、そういうコンセプトでやっているんです。ですから私はどちらかというと、どんどん統合が進んでいく、そういった町・村を参考にしたんじゃないで、横浜の大都会のコミュニティ・スクール、そういった都会の人たちの人と人との結びつきがそんなに強くなくても、学校と地域がもっとつながりを強くして、そして地域も元気になって、あるいは学校も元気になる。そして学校と地域がいろんな取り組みをすることによって今まで出来なかったことまで、入り込んで学校の教育活動が豊かになる。学校の教育活動が豊かになることによって、地域の方もそれに関わることで、やりがいを感じていて、地域も元気になると、こういうふうなあり方ですね。ですから、寒河江としては校長先生方が、このシステムを、「今ある学校の課題を解決するために地域とこういうふうに取り組んでいて、新しい学校の化学反応を起こすんだ」と、きちっとした理念と戦略を持っている学校から入れているわけですよ。ですから、一律教育委員会で「やってください」と言っているのではなくて、「うちの学校のコミュニティ・スクールは、こういうふうなやり方をすることで、すごく効果があるんだ」と思ってやっていただいているので、内容も全部違う、醍醐小さんと柴橋小と、西根小、陵東中も違うと思います。それぞれ校長さんの思いで違うやり方でやっていて、でも「こういうシステムを使うと、子どもたちも地域も元気になるんだ」という信念でやっているんですね。そういうふうにして、準備が出来て、戦略ができたところから入っているので、一気にボンといかないで、3年かかって全部になる、こういうふうになっているんですね、ですから統合して広がったとしても、大きくなった学校にとっても地域と繋がることで、こういうメリットがあるんだ、これをどういう戦略で使うんだ、ということを経験の方と運営協議会の中で熟議をして、そしてその戦略を作っていく、そうすると統合した学校が、どこを切っても金太郎じゃなくて、違った持ち味のコミュニティ・スクール、地域学校協働活動になっていくというふうに、私たちは願っているし、そうやっていくんじゃないかなというふうに思っていますので、規模の違い、あるいは学校が統合したとしても、そこにまた新しい良い展開が生まれてくるんじゃないかなというふうに期待しているところです。

#### ○委員長

一般に統合するとコミュニティとか、統合すると小中一貫とか、統合とそれを結び付けて捉えられている危険性がないのかなという感じがするんですけども、やっぱり別物だと思います。ですから、新しい学校が作られたそこに新しいコミュニティ・スクールが生まれるんじゃないかなというふうにとらえていった方がいいのかなという感じがします。ですから、ある意味で「さらなる推進」という言葉になってくるのかなと思いますので、ご理解いただければありがたいです。

もう一点のいわゆる特認校ですけども、これはこれからも特認校は継続になるというふうに捉えていいんですか。

#### ○軽部教育長

まあ、今までやってきた学校がある限りは、存在し続けるんだと思いますけれども、今後それが統合した時にどういうあり方がいいのかというのは、ちょっと今答えが出てきませんけれども、委員からあったみたいに、「とことん英語」は特認校だけじゃなくて、どの学校でも「とことん英語」をやりたいと思っているし、「とことんプログラミング」はどこでもやりたい。ですから時代

が求めるもの、その先に求めるものが何か、そこにどういうニーズがあるかっていうのをもう一回見定めたいと、特認校の必要性も含めて検討していくことになるのかなと思ったところです。

○委員長

先ほど「新しい時代に対応した」という、ポストコロナとは別かもしれませんが、新しい時代に対応した学校のあり方、運営のあり方、そういう中に特認校のあり方も含めていくという形になるのかなと思いますので、決してこれが、これからは、これはやらないとか、やるとかというところではなくて、また検討し直すという方向なのかなと、教育長さんの話からちょっと受け取らせていただきました。委員さんよろしいでしょうか。

○委員F

結構です。英語とかこだわらず、先取りのものが出来ればいいなと思っています。

○委員長

ぜひ、そのような進取のある学校経営を、というような願いだと思います。ありがとうございます。続いて、委員さんお願いします。

○委員E

先ほどちょっと意見言ったんですけど、まずこの答申をずっと読みまして、地域への配慮がいろいろなされているなということで、たいへんありがたいと思っています。二つ目は、我々が何回か話し合った中で、統廃合の例ですね、具体的な例が資料の中にきちっとあって、小学校だったら何校案、中学校だったら何校案、こういうふうなものがきちんと記載されているというので、大変良いんじゃないかと。なんとなく「ワァー」としたんでは、それを受ける方も「どういうことや、具体的には？」というふうに出てくると思うので、これも大変良い答申だなというふうにして見ました。

あと、個人的にさっきも言ったんですけど、西部学区に学校が何にもないのはあれだってあったんですけど、やっぱり市の方針として、寒河江市全体が活性化するという意識を持つならば、一極集中じゃなくて、例えば、寒河江地区だけに全てのいろんなものを集中するのではなくて、ある部分については、こっちの方に置くと。具体的に言うと、今度新しく作るならもっと西部地区寄りに建てるとか、中学校一校にするんだったら、西部地区寄りに付けて、そのバランスをとるといふか、一極集中から少し考えを広めて、まあ今日は議員さんもいらっしゃいますけど、そういうところに視点を置くのもいいのかなというふうには私は考えております。何がなんでも寒河江地区の中に全部組み込むというんじゃないで、その辺も配慮していただくと、ここには書く必要はないんですけど、そんなところも、私個人としてはお願いしたいなと思っていますので、宜しくお願いします。以上です。

○委員長

ありがとうございます。一極集中ではなくというご意見でございますので、これも念頭に置きながら今後進めていただければと思います。

最後にご意見をいただきたいんですが、その前に委員さん、最初にあてて本当に突発的だったんで、最後にご意見をどうぞ。

#### ○委員A

ありがとうございます。内容につきましては、皆さんがおっしゃられるようなことがその通りだなと私も思ってお聞きしたところでした。最初にですね、何を聞こうかなと思って、ちょっと忘れちゃったっていうのを思い出したので、ちょっとお聞きしたかったんですけど。答申とは内容的には違うんですが、いろんな学校の会議に出席させていただく機会がある中で、ちょっと気になったなと思って、学校の運営も含めてお聞きしたいというのが、どういうふうに進んでいくのかという部分ですが。学校の教職員の人数というのは生徒数によって決まっている、とお聞きしたことがあるんですね。で、学校の会議に出ますと、校長先生から教職員の残業の多さ、勤務超過といいますか、先生によっては大変多い時間を残業として仕事をしてらっしゃるということで、通常授業を行った後にですね、そのようないろいろな仕事があって、そして校長先生は「なるべく早く帰れ」と言っているんですが、やはり仕事が残っているという部分で残業しなければならないというふうな、現実問題先生がある中で、法律で決まっているという部分も含めるとですね、児童生徒に質の高いより良い教育をするというふうな部分のことはすごく大切なんですが、それは先生があつてのことなので、そういうふうな部分で、働き方改革ということで、当然民間もですね、その中でどのようにしていくかということをやっているわけなんですけど、これからは学校統廃合するにあたって、その辺の部分は学校教育課も含めて、どういうふうを考えているのかと、あとは、実質その学校の保護者として、いらっしゃらない方はご存じ上げない部分だと思ったので、ちょっとお話ししたいなと思ったところでした。

#### ○軽部教育長

まず「教職員の数」ということですが、これは法律で決まっています。「義務教育標準法」というのがあって、子どもの数によって学級数が決まりますよね。山形の場合はさんさんプランなので、33を単位にしながら、教員の、普通の標準法とイレギュラーな数え方しているんですけど、まずは学級の数によって先生方の数が決まる。ですから、子どもの数が増えて、学級数が多くなれば先生はそれに応じて多くなると、だから、「足りないのよ」と言っても、法律で縛りがあるので、無尽蔵に出てくるわけではないので、そこは決まっています。ただ大規模になればなるほど、ある程度加配、加配というのは、標準法で基本つける教員にプラス $\alpha$ で、「学校にはいろいろな課題があるから、それに応じて一人付けますよ」と。例えば陵東中学校さんを例にとると、日本語指導の必要なフィリピンの子どもたちがいるので、そのために一人加配教員が入っています。それから、寒河江学園があるので、その学園の対応のために施設加配というのが一人入っています。さらに、TTとかいろんな指導法がやりやすいように、例えば指導法改善の加配が入っています。教員数はだいたい四十何人位トータルすると入っているんじゃないですかね。陵南はもう少し母数が多いので五十人位入って、それにある程度生徒の数によってクラスが決まるので、クラスに応じて教員の数が増えるので、そこはなんともしようがないので、教育委員会としては、「加配をください」というふうに、県の教育委員会に、さっきのように、「日本語指導しなきゃならない子どもがいるんです」「寒河江学園からくる子どもがいるんです、そのために、プラス $\alpha$ く



ださい」と言って、認めてもらって、例えば40人の所に、2プラスとか3プラスとかっていうふうにして、膨らませて、市の教育委員会が県の教育委員会にお願いして増やしていただいていると。でも無尽蔵ではないので、ある程度教員の数というのは子どもの数、学級の数に制限されてきているという状況です。働き方改革については、寒河江もだいぶ先進的に取り組んでいるんですけども、一カ月80時間の時間外があった先生については、労働安全衛生法で、産業医の面接をしなければいけない、と法律で決まっています。ちゃんと制度設計しているのは寒河江だけだと思います。一カ月、例えば中学校になると、やっぱり部活動が多いので、その先生を室長が毎月市立病院の先生の所について行って、面接を聞いて「なんでこんなに時間多いんですかね、もっと減らすことできないんですかね」というような話を聞いて、先生からカウンセリングしたり、あるいは校長先生に指導していただいたり、そういったことをしています。県の教育委員会でも、令和4年度には80時間を超える人は、とにかく少なくしていきましょうという目標を作って、それに取り組んでいるわけですけども、ちゃんと法律どおり面接指導して、そして衛生委員会というふうに組織を作って、課題をきちんと共有化して対応しようとしているのは寒河江は胸張って言えるんじゃないかなと。ただ、なかなかそういう時間外が急激に減ったかというところじゃなくて、今考えているのは、今度は部活を地域移行、そういうものにしていくために、どういったことが必要かなということを、少し議論を広げていって、学校だけでなく保護者の方も、あるいはスポーツ少年団の方もみんな含めて、そこをどう解決していくかということに、今度はあり方の次は部活の地域移行についての話し合いの中に切り込んでいかなきゃいけないなと思っています。大きな働き方改革みたいな大きな課題があったように、私たちも悩みながら前に進んでいるということもご承知おきいただきたいと思います。

#### ○委員A

ありがとうございます。率直に、先生が大変だなあと、ご苦労なさっているなと思ったところでした。寒河江小学校ですと、PTAの会議を減らしたり、先生方の負担を減らすために、陵東のほうだと、今年は専門部を減らしたりとかというふうなことでですね、なるべく先生の負担を減らすようなことで、PTAの方も少し縮小している部分もあるところもあるようですけども、私たちも保護者として学校に関わる一員としてお手伝いできたらなと思ったところでした。

#### ○委員長

はい、私から追加させていただくと、今教育長さん大規模なお話で「加配」というお話があったんですけど、逆に小規模の場合も問題でして、特に中学校の小規模になってくると、最近9教科あるわけですけど、その9教科を教える先生が揃わなくなるんですね。免許持っていない先生が、特別に臨時免許状を貰って教えているという実態があるんですね。私も県内で関わっている10人くらいの中学校、なかなか統合しないんですけども、「先生方が大変だよ」という話をするんですが、地域感情が強くなるとなかなか統合に進まないという実態があります。

それからもう一つ、忙しさっていう面では、それを子どもたちも見えるんですね。「学校の先生方忙しいんだね。部活もあるし、日曜も土曜も出勤してるよね、ああいう職業には就きたくないよね、ブラックな。」と。そうすると教員を目指そうとする学生がどんどんどんどん減っちゃってる、今倍率がどんどん減ってる、ですから、ぜひこの場を通じて皆様の子どもさん方ぜひ先生も

一つの職業の中に加えていただければ大変ありがたいなというふうなことを逆にお願いします。  
最後に委員からご意見をいただきたいと思います。

#### ○委員M

今、「加配」のことで話が出たので、来年になると実は、今現在で3学級減ることになるんですね。特別支援学級も入れて。そうするとだいたい5人くらいの先生が減ってしまう。ただ学校の業務量や部活動の数は変わらない。そうすると加配の先生が、来る、来ないというのは、学校にとって非常に大きな問題なのかなと、今聞いていて感じたところでした。ぜひ教育委員会には頑張ってください、いっぱい加配を取ってきていただけるように、していただけるといいなと感じたところです。私は、以前の懇談会の中から加わっていきまして、懇談会時には懇親会があって、ここで結構いい話が出来たなあと思ったのですが、今回は、2年半の会議の中で一度も懇親会がなかったと。いろんな考えを持っている委員さん方と、もっとひざを交えて話が出来ると、もしかしたら違った答えもたくさん出たのかなと。そのことがここに来て残念だったなど。せめて1回か2回はあって、もっと意見交換をしたかったなという思いがあります。そんな中で、今回この答申を読ませていただいたわけですが、ご苦労様でした、本当に資料を上手くまとめられているなという思いがしました。見えてくるものですが、感想になるのでしょうか、私は大きく3つあると思います。ハード面の問題、それからソフト面の問題、それからもう1つが市民感情の問題。この3つの点が、この答申を見た時にそれぞれの課題が浮き彫りになってくるのかな、ということを感じたところです。考えてみれば今の市内の小中学校の体制が、まあ多少の途中の学校の創立の違いはあっても、4、50年こういう学校数で来た中で、令和10年という、あと6、7年後ですよ。ここまでの間に、市の学校のあり方が大きく変わろうとしているところ。その辺のスピード感ですね、この40年、50年続いた市民の感情とか意識が、6、7年の間にどう、こういうふうに、あり方について共通理解を持ってもらえるのか。先ほど教育長からも話のあった「コンセンサス」の構築が、ここ6、7年の間にするのが、1つ大きな課題なのかなと。どちらかというと小中学生の方は、順応性が高いので、そういった環境になれば、なったで上手く持っていけるのかなと思いますけど、周りのそういった所が少し心配なのかなと思いました。校長という立場からすると、6、7年後に市内の小中学校の様子が変わる訳です。当然、この話とか知らない先生方が学校を運営している。じゃあ、どういう先生方がやっているかという、今現在45から50歳くらいの先生が、市内の小中学校の校長先生になっているのかなという事で、そうするとその辺の所も、県の教員の構造的な課題として、非常に人数が少ない世代になってくる。今いる若い30代くらいの先生がミドルリーダーになっているのかなと。ここ4、5年、20代の新採の先生がたくさん入って来る訳ですけど、そういう先生方が多くなってきて、6、7年後の市内の小中学校でがんばっている。この活躍には大いに期待していかななくてはならないのかなということで、前から出ている「魅力ある学校」という時に、ソフト面、教職員の資質、先ほどもありましたが志望者がすごく少なくなっているということもあって、教員の資質、能力といいますか、そういった所も、これからのあり方にも大きく関わってくるのかなというふうに思います。それとハード面ですね、施設の老朽化をどういうふうに手を付けていくのか、そのような所の課題もあるし、この答申を見た時にそういった大きな課題があるのかなということで、やはり6、7年後にソフトランディングしていくには、この3つの

事が同時に進んでいかないと、課題を解決していかないと、なかなかうまくいかないのかなあという事を感じたところです。ただやっぱり寒河江市の場合は、ご存じの通りタブレット1人1台配付につきましても、働き方改革につきましても、「寒河江市は進んでいいね」と。やはりいろんな事にチャレンジしていくような取り組みがたくさん感じられると、周りの地域の校長先生方がよく話をするんですけども、例えばタブレットの持ち帰りを、寒河江市は率先して当初から持ち帰りをさせている。そういった市町村は県内でも、たぶん寒河江市が最初だったと思います。といったように非常に頼りがいのある教育委員会だと思いますので、これからもリーダーシップを発揮していただくことを大いに期待しているところです。なお、余談になるんですけど、今、村山市は楯岡中と葉山中の2校ですけど、葉山中学校が1つに統合する時に、ちょうど立ち合わせてもらったのですが、地域から中学校が無くなって新しい中学校が出来るという時の、タイムスケジュールですが、悪い言葉で言うと根回しというのか、準備をしっかりとしておくとか怖くはないのかなと。その辺の準備をいかに進めていくことが大事かということ、その中学校の統合の時に感じました。あの時は、生徒、地域、保護者それぞれへの関わり方のタイムスケジュールがあって、一つの中学校になった訳ですけど、開校当初は人数のバランスがあった訳ですけども、初年度は生徒会長が3人いました。それぞれの学校を尊重して、「新しい学校を作っていこう、それぞれの良さを集めよう」ということで、出来ないことを考えるのではなくて、出来ることは何なのかという事を前向きに考えてきた結果が、良い結果になったのかなと感じています。思い起こせば、50年前も「あり方の検討」があったんだと思います。陵南中学校が開校した時も、柴橋中と寒河江中が統合と。あの当時は生徒数が多くて、新しい建物も必要だという事で、あれから半世紀。今度は人数が少なくなってきての統廃合ということで、やはり時代も違うんですけど、そういった節目節目に、今回は教育委員会さんのリーダーシップに期待しながら、うまくタイムスケジュールに沿ってやってもらえるといいのかな、というようなことを期待しています。あと、6、7年後にはうちの孫も小学校とか中学校に上がる時代にもなってくるので、非常に楽しみにしたいと思っております。ということで、私の感想でした。

#### ○委員長

では、委員よろしく申し上げます。

#### ○委員N

大変いい話を聞いた後で話にくいな、と思っていますけれども、答申自体は、非常に上手くまとめてくださっているな、という感じがしました。まず課題が、児童生徒の減少、それから地域による不均衡、学校施設の老朽化という事で明確にきちんと示されていますし、この課題に沿って、このあり方検討委員会の経過も非常に詳しく分かりやすく書いてくださっているなと思います。特に、複式学級の早期解消を図るという理由であるとか、それから大規模校の良い点と課題、そして寒河江市がこれから求める基本的な部分などもきちんと示されていますので、非常に分かり易いなと思いました。細かい所については、先ほど委員の皆様から出していただいたような部分を、より明確にさせていただくと、本当に素晴らしいんじゃないかな、と思ったところです。まず一番に感じるのは校舎の老朽化というところを感じます。いよいよ新しい教育が入ってきている中で、例えば教室の形は決まっていますので、なかなか今のものが合っていないというか、例

えば電子黒板なんかを入れる時にも、電子黒板が教室の上の柱にぶつかるんですね。そんなことがあってよっぽど慎重に入れないと、なかなかうまく入らない。入れたら入れたで教室が狭くて、子どもたちが上手に使えないというようなことがありますし、廊下なんかも狭いので、歩いてすれ違うのも大変な状況で荷物も置けないというようなことがあります、まずそういったところ、中学校は古いので、大きな課題だなと思います。それから先ほどから出ている様に、やはり先生方の数が多い方がいいですね。いろいろな部分で教育委員会さんからも配慮していただいております。先ほど教育長からあったように、本校には日本語指導の必要な生徒も何名かおりますので、その生徒のために一人、先生を付けてもらえるというのは、教育を受ける生徒にとっても非常に充実した活動になっていのではないかと思います。そんなところで、先生方の数が多いというのは、いろんな面でいろんな動きが取れるなと思っているところです。例えば、いろんな指導も多様なことが出来ますし、担任なども中学校でありながら、少しずつ変わって、学年みんなで見ていくんだ、とかいろんな対応が出来たり、つまり学級の枠にとらわれない活動が出来たりとか、全校生を使った活動なんかも、いろんな事が考えられていいなと思っているところです。私も最初からよく言っていますが、小学校は出来るだけ地域と密着した学校がいいなと思います。やはり、小学校の子どもたちというのは、地域の人と一緒にあって、育てていただかなくてはならないという部分もありますし、子どもの時に地域の自然や伝統文化などに触れさせて、自分の地域の良さをしっかりと体験させることが必要なのかなと思いますので、小学校には地域が大事だなと思います。中学校の場合は、先ほどから申しあげていますように、いろんな面で大きくてもいいのかなと。大きくいろんな人と関わって、いろんな活動が出来て、そしていろんな経験が出来る、自分の生き方を考えていけるような、そういう所がいいのかなと思います。それがなおかつ、安全な施設設備であり、バリアフリーがあって、そしていろんな教育活動が展開できるような、そういう学校であれば夢があっていいなと思います。まあ、そんなことを考えてきたんですけど、この答申の通り、皆さんに考えていただいて、決めていただいていいのかなと思っているところです。ずっと引っかかっていたのは財政面のことで、はたして校舎がいくつくらい新しく出来るのかな、というところが引っかかっているところなので、その辺の所もぜひ前向きに検討していただければな、と思っているところでした。どうもありがとうございました。

#### ○委員長

最後に、委員よろしくお願ひします。

#### ○委員L

この答申を読ませていただいて、先ほどからあったように、大変うまくまとめられているような気がして、ちょっと異論が出そうなところも正直に書かれていて、いいんじゃないかなと思ったところです。新しい学校を作るにあたって、こんなことが大切にされる学校がいいな、なんて思っているものとして、環境に配慮しているもの、やはり情報化に対応したもの、それから地域連携を大切にしたもの、あとは多様性が認められている学校、そんなコンセプトというか4つ考えた時に、5ページの2に基本方針が示されています。ほとんど網羅されているのではないかなと、とても楽しみな、期待される学校になっていくんじゃないかなと思っています。例えば、環境面などは、②、⑨、⑩あたりがそうだし、ちょっと足りないかなと思っているのは、情報に対

応したという施設設備などの文言があってもいいのかなと感じました。(1)の部分については。あと、細かいことで申し訳ないのですが、②「児童生徒が快適で潤いのもてる施設とする」とありますが、我々教職員にとってもそうあればいいなど。まあこれは書くべきかどうか分かりません。でもぜひ、教職員にとっても潤いのある施設にしてほしいなという思いはあります。それから④に「十分に運動することのできるグラウンド」と書いてあるのですが、私たちみたいなインドア派からすると、ぜひ「体育施設」と、体育館の方も考えていただければな、と思ったところです。あと⑥のいろんな地域連携施設を利用して、これが一体になった素晴らしい実際の例もあります。例えばコミセンが学校に併設されている。これすごくいいなと思いました。ここに「保育所」とありますが、やはり福祉施設などもあってもいいなと思っています。これが「市立施設」に含まれるのかどうか分かりませんが、そういったものがあってもいいなと感じたところです。あと、(3)の「新しい教育」は、新しい指導要領とか、ポストコロナという意味だと思うんですけども、やはりここにも、③に「グローバル化」という言葉があるんですけども、やはりこれから情報化であったり、まあ、情報化については⑤にありますからいいのかなと思いますけど、多様性に対応したものであってほしい。それから、細かい話ですが、男女混合名簿なんていうものは西村山でほとんどやっていません。制服も男女別になっているし。「マイノリティ」について、裏の方にはありますけれど、そういったものに配慮した新しい教育なんていう発想でもいいのかなと感じたところでした。あと6ページでは、先ほどからあった「生徒指導上の配慮事項」、先ほど教育長さんがおっしゃったようなところは、ぜひ入れていただきたいなと思っています。「多様な人間関係づくり」という言葉がありますが、1人1人の多様性を大事にする生徒指導であってほしいなと思っています。あと部活動を取り上げていただいたのは、とってもいいことだなと思っています。ただ、部活動についての流れというのが未知数で、今、国をあげて地域移行をやっている訳ですけど、1つは、もう学校の枠を外そう、なんていう考え方もあります。地域のいろんな体育の専門家をどんどん取り入れていこう、なんていうことがあるので、①から③までで十分だと思いますけれども、そういった新しい動きがどんどん出てきているというようなことです。あとは、(6)のまちづくりも大切だと思うし、②の「地域の人と一緒に作る」という事でもいいと思うんですが、やはりこれからは地域の事業所とか企業とか高校大学とか学術的な施設なども一緒に入って学校を作るんだ、というような発想が大事になってくるのかなと思っています。ぜひ「未来の学校はこうだ」というようなモデルを寒河江市から発信するような、そういった発想でこれから進めていただければありがたいな、と思ったところです。以上です。

#### ○委員長

ありがとうございます。今、ご指摘いただいた点については、修正できる個所も多々あるかと思しますので、おおいに参考にさせていただきながら、修正に関わらせていただければというふうに思います。委員という立場よりも、オブザーバーということも、非常に微妙な立場ですね。学校の人はこの統廃合に、「なかなか意見が言えない」というのが現状の中で、このように委員として参加していただいたことを感謝申し上げます。さて、時間も押してきました。どうしても言い足りなかったなんてことがございましたら、ぜひこの場で。

よろしいでしょうか。もしなければ、皆様から本当に貴重な意見をいただきました。その意見を見ますと、大局的な、いわゆる大きな修正意見という事ではなく、ほとんどの方からご賛同い

ただいたのかなと思います。細かい点については、今申し上げた通り、いくつかございましたので、この点については、事務局さんを中心に、委員長である私の方にお任せいただいて、最終的にまとめさせていただくというようなことで、お願いしたいと思います。そして12月に、教育長さんからありました通り、答申を出すわけですけど、事務局さん、その前に委員の方々には修正したものの資料は今まで通り、答申文は届くという事でよろしいですか。

○軽部教育長

今、頂戴した意見を委員長さんの判断で、そして私たち事務局も関わって直したものを「こんな形にさせていただきました」というふうなことでどうでしょうか。そこでまた修正となるとあれなので、今出していただいた意見を最大限活かさせていただいて、文言を修正して委員長さんの判断で作っていただいて、そして「こういった形で答申します」ということで、委員の方にお示ししていただく形でどうでしょうか。

○委員長

そのような形でよろしいでしょうか。

(「はい」という同意の声)

○委員長

ありがとうございます。ではそのような進め方でさせていただきたいと思います。本当にこの2年半でしょうか、皆様方からは本当に貴重な意見をいただきました。今の話を聞いても、我々はタイミングよく将来を作る場に居合わせた、と逆の意味で貴重であったなと思います。学校を変えるという事は、結局は地域を変える、そして寒河江市全体を変えていく。それがもっと広がっていく。ただ今、不透明な時代で先行き不安ですけども、その中で明るい話題を提供できるのかなと思っています。将来を作る作業、まさに十年後ではなく百年後、その後を見越した作業だったのかなと思っています。この答申を最終的に市当局の方でしっかりと受け止めていただいて、我々の望む方向に改善されることを、まずお願いしたいと思っています。本当に貴重な意見をいただきましたこと、改めて感謝申し上げて委員長の任を下ろさせていただきます。ありがとうございました。

○事務局（学校教育課 佐藤課長補佐）

ありがとうございました。次第6「その他」でございます。事務局からは、今説明した通り、追って資料を皆様の方にお届けするという事で、お願いしたいと考えてございます。その他、何かお持ちの方いらっしゃればお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

それでは、以上を持ちまして第十回になりました、寒河江市立学校のあり方検討委員会を終了とさせていただきたいと思います。誠にありがとうございました。